

# 実践! 6次産業

## 「農家としての幸せ、そして使命」

NPO 法人みちのく6次産業プラットフォーム 理事 遠藤 耕太

私の住む若林区三本塚は海から一・八キロメートルで、五年前の三月十二日、今までに感じた事のないような地震に襲われ、畑に尻もちをついたまま何も出来なかつたの事を今でも忘れられません。

津波の心配などとしておらず、気が付いた頃にはトラクターや農業機械が流され始め、二階建ての我が家しか逃げ場がありませんでした。幸いな事に翌日の午後には家族全員の無事が確認できました。

私の職場である農地は、瓦礫や海水で復旧するまでに何年掛かるかもわからない状況でした。

ですから、五年後の今、営業再開が出来ている事に感謝しております。

私たち農業者の日々は、常に様々な環境との戦いでもあります。様々な販路やニーズに対応出来る様に、様々な栽培方法で野菜を栽培してきました。

最近では記録的な豪雨であったり、記録的な猛暑が続いたり、東日本大震災以降、今までに経験した事の無い天災にも見舞われます。

現在、どこのスーパーへ行っても季節を問わず食べたい野

菜を購入する事が出来ますし、外食に行けば一年中、色々なメニューが楽しめます。これは様々な技術の進歩があるからなのでしょう。

農業者として、やはり旬の野菜を味わう事や、旬の野菜を栽培する事も幸せの一つでもあります。

一方で、消費者へ食を届けるという使命もあります。この使命を果たす手段として、各々の農業者が各々の販路の求める野菜の為に、その先にいる消費者の為に、その手段を常に検討し実践してきました。

東日本大震災以降、農事情勢も沢山の問題に直面しています。

我が家も例外ではありません。震災前は稲作とレタス栽培がメインの農家でした。父が就農した頃の米価は一俵二万円、現在は一俵二万円。レタスも大型産地などの端境期を狙うような作型で、大型産地が台風被害等に遭えば値段が高騰し、大型産地が順調にいけば値段が下落するという、博打のような作型でした。

やはり農業を持続可能な職業にする為に、生産コストの削減、作業効率の向上等は当

たり前の時代になっています。

現在の我が家の取り組みは、販路の分散や、野菜苗の販売を震災前の経営にプラスαとして行っています。利益はまだまだ米価の下落の補填程度ですが、自分の栽培した農産物に責任を持てるような経営が出来てくれば、6次産業や農商工連携も考え、夢でもあります。

今から三十年くらい前は、私の住む若林区の農業は仙台的台所とも呼ばれていました。当時は、現在のような冷蔵システムや物流システムは発達しておらず、当たり前に地産地消が行われていたようです。その事もあり、地元の野菜や季節の野菜の楽しみ方や食べ方は当たり前に身につけていたのでしょう。こうした楽しみ方や食べ方も提案できるような場所作りや、販売方法も必要な時代なのかもしれません。

農業者でいる以上、少しでも消費者に農産物や農業に興味を持ってもらえるように、時代にあった農産物を栽培し、農業を持続させていく、維持させてもらおう、これが私の農業なのかもしれません。

6次産業とは 農林水産物の生産(第1次産業)、加工・製造(第2次産業)、流通・販売・観光など(第3次産業)を組み合わせ、多角的または他業種との連携による経営によって、高い付加価値や新たな商品・サービスを創出していくこと

NPO 法人みちのく6次産業プラットフォーム <http://michi6.nou-shou-kou.jp/>